

11月3回（11月15日～11月21日）商品検査実績

●微生物検査 199 検体

検査の結果特に問題はありませんでした。

●理化学検査 107 検体

食品添加物検査	30 検体実施しました。検査の結果問題ありませんでした。	
残留農薬検査	外部検査機関に 11 検体依頼しました。検査の結果問題ありませんでした。	
簡易農薬検査	10 検体実施しました。検査の結果問題ありませんでした。	
P C R 検査	畜種判別検査	6 検体実施しました。検査の結果問題ありませんでした。
	GMO検査	6 検体実施しました。検査の結果問題ありませんでした。
	米のDNA異種米判定	今週は実施しておりません。
	コシヒカリ品種判定	4 検体実施しました。検査の結果問題ありませんでした。
米鮮度判定	2 検体実施しました。検査の結果問題ありませんでした。	
卵鮮度判定	今週は実施しておりません。	
アレルゲン検査	4 検体実施しました。検査の結果問題ありませんでした。	
ヒスタミン検査	5 検体実施しました。検査の結果問題ありませんでした。	
アフラトキシン(カビ毒)	今週は実施しておりません。	
クドア（養殖ヒラメ寄生虫）	市販品を 2 検体実施しました。検査の結果問題ありませんでした。	
放射性物質検査（スペクトロメータ※①）	7 体（野菜 2 検体、果物 4 検体、水産 1 検体）実施しました。全て検出限界値（約 20Bq/kg）以下となりました。	
放射性物質検査（サーベイメータ※②）	20 検体（野菜 6 検体、果物 7 検体、きのこ 7 検体）実施しました。バックグラウンドとの差異が 3※③kcps（キロ・カウント・パー・セカンド）以内となりました。	

- ・ヒスタミン検査＝ヒスタミンによる食中毒は、アレルギー様食中毒の一つであり、鮮度の低下したマグロやカツオ、サバなどの赤身魚やその加工品が原因となることが多いため、検査でヒスタミンの濃度を測定します。
- ・アフラトキシン＝アスペルギルス属の一部のカビが産生するカビ毒で肝臓がんの原因の一つと考えられています。アフラトキシンが作られる最適条件は、温度 30℃前後、湿度 95%以上であるため、高温多湿の熱帯地方等が最も適しています。輸入食品の安全性に関わるため、日本では、輸入時に行う抜き取りのカビ毒検査やカビそのものが生育していないか外見上の検査を実施しています。なお、日本国内で、食品にアフラトキシン汚染が起きる可能性は低いものと考えられています。

※①NaI シンチレーションスペクトロメータ（遮蔽体付検査機器で核種を特定できるもの：ヨウ素 131、セシウム 134、セシウム 137 を測定）

※②NaI シンチレーションサーベイメータ（遮蔽体無ししゃへいたいの持ち運びできる機器：ガンマ線総量を測定）

※③kcps（キロ・カウント・パー・セカンド）：1秒間に対象となるものから何回放射性物質が放出されているか測定するものです。奈良県行政と同様にバックグラウンド（放射線測定の際の測定対象以外からの放射線しゃへいたいで宇宙線や天然の放射性物質に起因する）との差異を3以内としました。

品質保証 & 声だより 12

2015

組合員さんの声

CO・OPごみ袋コンパクトボックス(半透明) 30L 50枚はちょうどよい大きさで使いやすく、保管も場所をとらず便利なので案内してほしい。

実現しました

リクエストをいただきありがとうございます。

この商品は過去に案内してありましたが、ご利用が少なく無店舗事業での案内を休止しておりました。このたび多くの組合員さんからリクエストをいただきましたので、12月4日に企画することとしました。この商品はティッシュ感覚で1枚ずつ取り出し、収納に便利なコンパクトな包装形態のごみ袋です。この機会にぜひご利用くださいますようお願いいたします。

12月4日に再登場



今月のおしらせ 取引先研修会

この研修会は、お取引先とならコープにおいて、品質保証の重要性を共有化し、さらなる品質管理レベルの向上を目指すために年1回実施しています。

今年度の実施内容

10月27日(火)に奈良県文化会館で開催し、取引先75社から96名と、ならコープの理事21名、職員26名を含めた143名の参加がありました。

研修会では、(株)鶏卵肉情報センター 常務取締役 岩本嘉之氏から「食品安全マネジメントシステムを取り巻く国内外の最新情報」について講演いただき、学習を深めました。また、お取引先2社(大山乳業農業協同組合(株)サラダコスモ)から自社での事例報告をいただき、品質管理の取り組みを共有しました。今後もいっそうの協力・協同の関係を目指してまいります。



10月度商品検査実績

●微生物検査 933検体

●店舗新規商品検査において「日記1品目」が一般生菌数において自主基準不適合となったことから工程管理を見直して再検査を実施しました。再検査では自主基準に適合する結果となりました。



●理化学検査 524検体

食品添加物	簡易農薬	畜種判定	残留農薬 (外部検査機関へ依頼)	精米品種判定 (外部検査機関へ依頼)	カビ毒
138検体	50検体	6検体	5検体	5検体	4検体

検査の結果、いずれも問題ありませんでした。

放射性物質検査 (NaIシンチレーション スペクトロメータ※①)	70検体	無店舗商品抜取で米3検体、野菜15検体、果物18検体、牛乳10検体、鶏卵10検体、店舗新規商品で米1検体、店舗商品抜取で米9検体、水産1検体、冷蔵日記2検体、飲料1検体、検査の結果、全て検出限界値(20Bq/kg)以下でした。
放射性物質検査 (NaIシンチレーション サーベイメータ※②)	88検体	無店舗商品抜取で野菜34検体、果物25検体、きのこ21検体、店舗商品抜取で野菜3検体、果物5検体検査の結果、全てバックグラウンドとの差異が※③3kcps(キロ・カウント・パー・セカンド)以内となりました。

※①NaI(エヌイーアイ)シンチレーションスペクトロメータ(遮蔽体(しゃへいたい)付検出器で核種を特定できるもの:ヨウ素131、セシウム134、セシウム137を測定)

※②NaIシンチレーションサーベイメータ(遮蔽体無しの持ち運びできる機器:ガンマ線総量を測定)

※③kcps(キロ・カウント・パー・セカンド):1秒間に対象となるものから何回放射性物質が放出されているか測定するものです。奈良県行政と同様にバックグラウンド(放射線測定の際の測定対象以外からの放射線で宇宙線や天然の放射性物質に起因する)との差異を3以内としました。NaIシンチレーションサーベイメータではガンマ線総量を測定し、より多くの検体を測定し、検出が疑われる場合は、NaIシンチレーションスペクトロメータで確認検査を行うこととしています。